

使われなくなった
のこぎり屋根工場
今後を語る座談会

第九回

報告書

のこぎり座

座談会内容

『散策・起』

日時、平成二十九年五月二十八日

午後二時～五時

場所、名鉄バス「起」停留所

第九回のコ座 『散策・起』

日時 平成29年5月28日 14:00～17:00

場所 名鉄バス「起」停留所

第八回 『散策・玉ノ井』に引き続き、今回は 歴史の町『起』を散策します。

集合時間より少し前に起のバス停に到着したので、バス停前にある喫茶店に入りました。店内には起のまちあるきマップがあり、のこぎり屋根工場のマークがしっかりプロットされていました。やっぱり起はそうゆう町なんだと、期待が膨らみました。お店の方や常連さんと、これから散策する工場の話をしました。工場の持ち主さんをどなたか知っているかと尋ねると、知っているような知らないような、そんな返事を聞いて店を出ました。

起は、木曾川の起渡船場のあった宿場町で、街道沿いに発展してきた歴史から、旧街道沿いには歴史的な建物が残っています。また、玉ノ井地区と同様に、用水路沿いにはのこぎり屋根工場や煙突が多く見られます。今回は起のバス停から北へぐるっと回るルートでのこぎり散策をします。



まず最初に訪れたのは、バス停から南に下ったところにある、旧舩善毛織の工場。尾張のこぎり調査団の調査によると、工場は1917～20年の間に建てられたとみられ、同時代の工場が次々と姿を消す中、所有者が修繕を重ねながら保存してこられたそうです。赤レンガの壁が象徴的で、様々なパンフレットの表紙にたびたび登場する工場です。

次に田内織布工場さんの母屋にお邪魔しました。創業は明治30年で、工場はすでにありませんが、立派な母屋が残っています。敷地内には洋館、蔵、茶室が二つあり、それらが庭に囲まれています。持ち主の田内さんはこの建物をオープンな場所にしたいと考えられており、これからどのように活用していくか検討されています。様々な可能性を見つけるきっかけとして、7月17日にここの場所をお借りして、第十一回のご座を開催する予定です。起の街並やのこぎり屋根工場の歴史と変遷、そして現状を語るという内容です。田内さんのお宅も含め、歴史ある起の変遷を再確認しながら、今後を模索することができればと思います。

田内さんのお宅を後にして、三岸節子記念美術館の方角へ歩きます。その途中にも少し変わった形のモルタル壁の工場があります。急勾配な採光面と大きな窓が特徴的です。また、三岸節子記念美術館の近くには、採光面が南向きの珍しいのこぎり屋根工場があります。直射日光をふんだんに取り入れた内部は一体どのような環境になっているのか。興味が湧く工場です。





みずほ興業の大きな工場の横を通り、途中細い路地に誘われて寄り道をしながら匠整理工場の裏へ出ます。ここは鉄筋コンクリート造で14連ある大きな工場です。道の始まりから終わりまでずっと工場が続き、圧巻です。

その道を抜け少し西へ歩くと、用水路沿いの道に出ます。ここは2連程の小柄な工場が並び、静かでゆったりとした時間が流れていました。安浄寺の高い石垣の路地を抜けて一つ目の堤防道路に上がると、秋葉神社が見えてきます。

神社の裏の道を曲がるとパッと景色が開け、そこには2連の工場がぽつりと建っています。工場の前にある畑ではおばあさんが畑仕事しており、堤防沿いの日常の風景にのこぎり屋根がとけ込んでいました。おばあさんは工場の持ち主ではないようですが、工場も、ツタに覆われた隣の母屋も長い間使われていないそうです。母屋は本当にツタしか見えませんでした。

風が心地よい堤防沿いの草むらをそのまま南へ歩いていきます。草むらにはブランコや滑り台などの遊具が、その奥にはのこぎり屋根が並んでいました。張り出し窓が付いた洋館や、木曾川が一望できる屋上のある事務所なども、工場の隣に建っています。







堤防沿いにある人柱観音を抜けると金刀比羅社があります。ここには起渡船場跡である、巨大な常夜燈が残っています。渡船場の東には国の有形登録文化財に指定されている湊屋があります。ここでおにまんじゅうとげんこつを頂き、一休みしました。湊屋の隣にも工場があります。ここは現在使われておりませんが、内部はきれいな状態で維持されているそうです。残念ながら今回は持ち主さんとお会いすることが出来ませんでした。また訪れたいと思います。

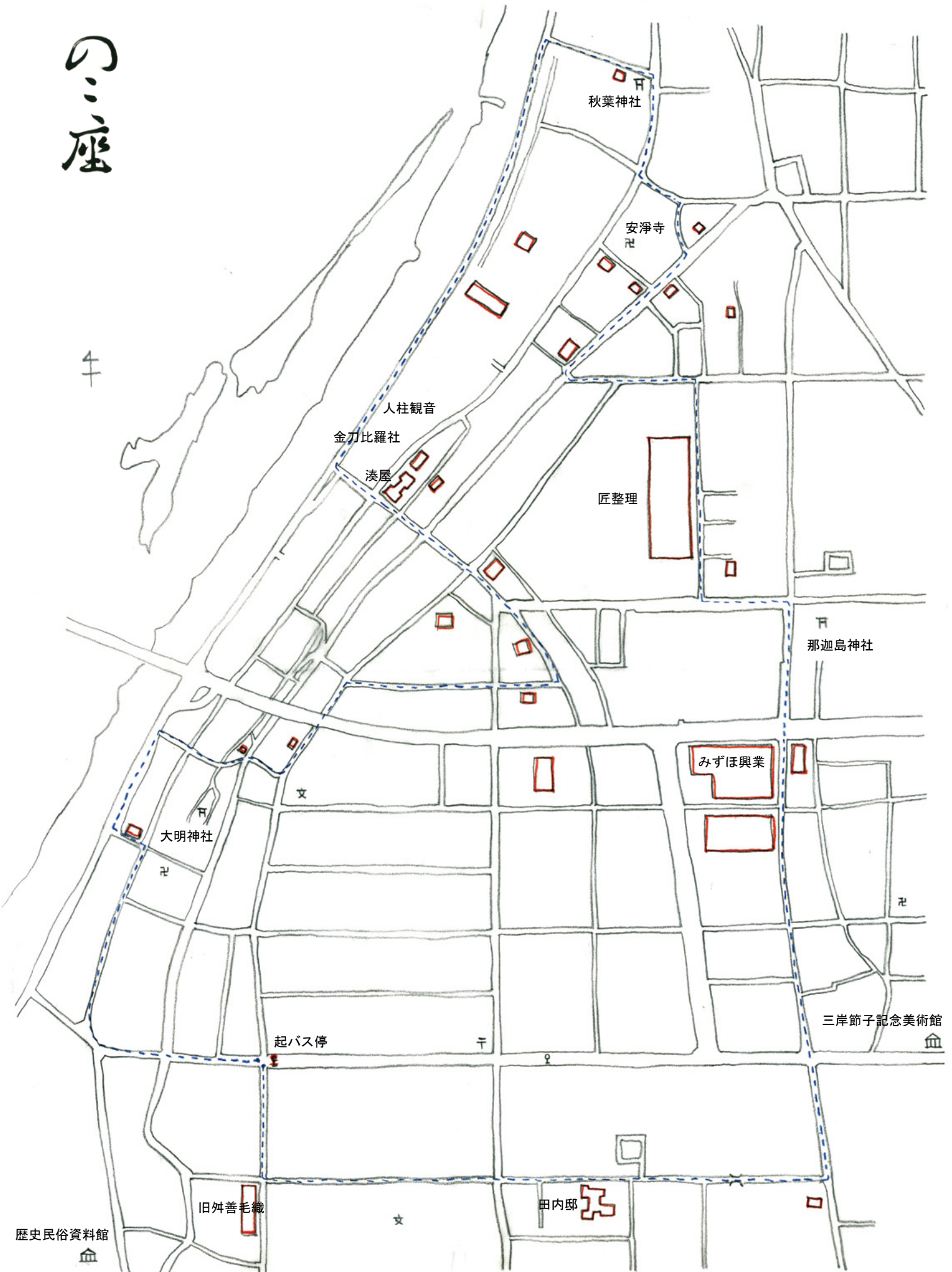
最後は起のバス停の方へ帰りながら、途中にある工場を巡りました。濃尾大橋へ繋がる大きな道路大垣線の高架下にはまだまだ細い路地が残っており、その合間に小さな工場がポツポツ並んでいます。その奥には神社や寺院があって、それらの組み合わせが一層面白い町並みにしていると感じました。最後は大明神社の鳥居の前で解散しました。

第八回、第九回と木曾川沿いの町を散策しました。自然の地形の影響が色濃く反映された町並みは、表情が豊かで、そこに建つ建物を風景として昇華してくれます。のこぎり屋根と木曾川というこの地域らしい風景が見られた散策だったと思います。次回の散策は『浅井』でしょうか。

平松毛織株式会社 取締役
平松久典

のゝ座

↑



歴史民俗資料館

